

第3章 再整備方針

3-1. 再整備方針

(1) 再整備方針の検討条件

① つつじが岡公園グランドデザイン

つつじが岡公園が群馬県から館林市へ移管されるに際し、「多様な主体の参画を促す花と緑あふれる四季型都市公園」を理念として掲げる「つつじが岡公園グランドデザイン」を策定しており、本計画においてもこれを踏まえた再整備方針とします。

【つつじが岡公園グランドデザイン検討結果】 (H22.3 策定)

グランドデザインの理念と展開方針		
理念 多様な主体の参画を促す 花と緑あふれる四季型都市公園		3つの展開方針 ①観光性と日常性を兼備した通年利用型施設配置と施策実施 ②統一的・俯瞰的な管理運営のための体制構築 ③持続的な市民力の参画と効果的・効率的な民間活力の導入
検討課題	課題に対応した改善の方向	リニューアルポイント
利便性・ 周辺施設 との連携	◇レンタサイクルの大幅展開 周辺との連携で公園利用者数増加を図る	①催し物広場を和風花木園（仮称）にリニューアル 日本古来の花で夏～秋を演出増加を図る
	◇駐車場の整備 緑道を駐車場化し駐車場位置を他駐車場と連携	②温室をサービスセンターに 水産学習館を総合管理事務所にリニューアル 前 後 温 室 → 来園者の便益施設（サービスセンター） ・インフォメーションセンター ・休憩スペース（つつじPR） ・喫茶・軽食コーナー・フラワーショップ ・レンタサイクル 水産学習館→総合管理事務所 （管理事務所、つつじ研究所・ボランティア詰所）
	◇バス路線の充実 バス本数の増加検討。バス会社との連携	③観光案内所・トイレを移設しオープンスペース確保 案内所はつつじの時期の案内、管理詰所等の機能に特化
公園の 案内充実	◇館林駅周辺の案内充実 駅前案内の充実→駅利用者への情報提供	④バーベキュー広場を設置し四季型の利用促進を検討 城沼岸にバーベキュー広場設置。民活との連携も
	◇HPの内容充実・定期更新 リアルタイム画像の提供や内容の定期的更新。	⑤緑道を駐車場化し一体利用。身障者観光バスに対応 緑道を駐車場化し年間利用率の高い駐車場と一体化
施設・ サービス 内容改善	◇観光案内所の移転検討 オープンスペース確保のため移転を検討	⑥老朽化施設のリニューアル 園路広場改修、カスケードを花壇にリニューアル
	◇温室・水産学習館をリニューアル 現在の利用性向等を把握しリニューアル検討	⑦公園内の見通しを確保 園路広場の購買変更、樹木間引、標識等の再整備
	◇ツツジをPRするための施設 通年で世界一のツツジをPRできる施設	⑧花のゆりかごプロジェクトの展開 種まき～育苗苗を市民参加で実施し年2回花苗を供給
	◇バーベキュー広場導入検討 四季型利活用施策としてバーベキュー広場	⑨県土整備部管理→市指定管理者に一元化
空間の 有効活用	◇花による公園の四季型化 つつじ以外に四季折々の花が楽しめる工夫	⑩周辺との連携及びソフト施策の実施 春のつつじ祭りに加え秋に新たな企画を ・周辺施設のサイクリングネットワーク化（連携） ・地元野菜特産市、緑道等で屋台村による賑わい創出 ・館林らしさ、群馬らしさを味わえるグルメ祭 （G1グランプリ）等の開催 ・秋期の入り口出店の活用
	◇休憩スペースの確保 休憩スペース、長時間滞在ができる施設	
施設の 維持管理	◇広場の有効活用 催物広場の有効活用とソフトの充実	
	◇公園管理の一元化 管理の一元化を行い効率的に管理運営	
	◇市民参加・民間活力の導入 多様な主体の参画で効果的・効率的な管理	
	◇園内の見通し改善 開放的で見通しの良い空間整備	
施設の 維持管理	◇施設の修繕 老朽化のすすむ施設（水時計等）の修繕 （利用者の要望多い）	

【つつじが岡公園グランドデザイン】

つつじが岡公園グランドデザイン

理念 → 多様な主体の参画を促す花と緑あふれる四季型都市公園

展開方針

- ① 観光性と日常性を兼ね備えた通年利用型施設配置と施策実施
- ② 統一・俯瞰的な管理運営のための体制構築
- ③ 持続的な市民力の参画と効果的・効率的な民間活力の導入

リニューアルポイント①

催し物広場 → 和風花木園(仮称)



リニューアルポイント④

バーベキュー広場整備を検討



リニューアルポイント③

観光案内所、トイレ
→ 移築しオープンスペース確保



スペース狭く観光シーズン危険
つつじの幹木と境界を遮るトイレ
後方に広い私有地【移設予定地】

リニューアルポイント②

- 熱帯温室 → サービスセンター (つつじPR、喫茶等)
- 水産学習館 → 総合管理事務所



リニューアルポイント⑤

緑道 → 駐車場



リニューアルポイント⑥

老朽化施設のリニューアル



リニューアルポイント⑦

【公園内の見通し良好に】



木々が生育し視界不良。間引きも必要

リニューアルポイント⑧

花のゆりかごプロジェクト導入

- ① 公園への市民力の導入 (ボランティアの組織化)
- ① 市民参加で種蒔き〜鉢上げ〜花壇づくりを実施
- ② 育苗の2/3を公園に、1/3を自宅に植え付け
- ③ 年2回(春まき、秋まき)実施。四季を通じて公園が花いっぱい

リニューアルポイント⑨

3分化(環境、農政、県土)
→ 県土整備部に管理を一元化

リニューアルポイント⑩【ソフト施策の充実】

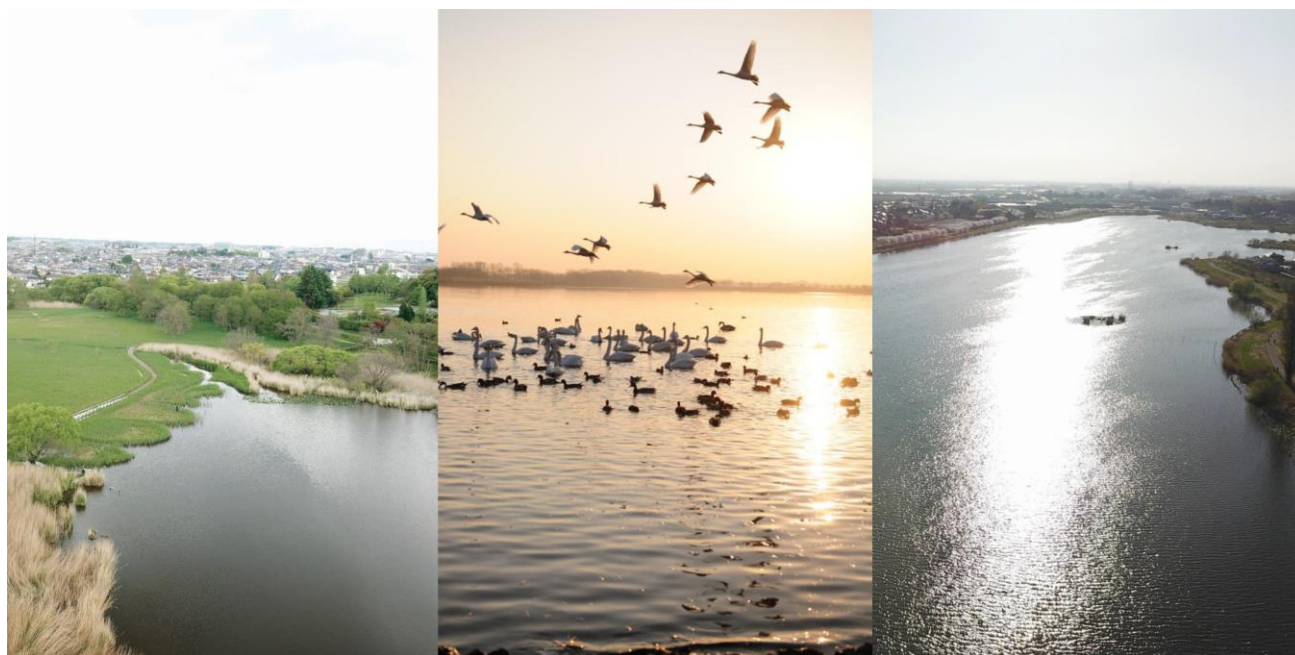
市民参加型のイベント開催 → 春のつつじ祭りに加え秋に新たな企画開催
ex. G1グランプリ等
秋期の入り口出店の活用も

②日本遺産「里沼」の認定

つつじが岡公園に隣接する城沼を含めた館林市の沼辺文化は、令和元年度に「里沼」として文化庁「日本遺産」に認定されました。

本計画においては、日本遺産「里沼」の認定を契機に、つつじが岡公園が持つ自然や水辺空間としてのポテンシャルに加え、館林市の歴史的背景や産業、市内外の観光スポット等との連携も含めた多様な利活用により、館林市の沼辺文化を軸とした魅力を発信していくことも必要です。

【日本遺産「里沼」】



	概要
祈りの沼 茂林寺沼	館林市南部にある茂林寺沼とその周囲に広がる低地湿原 良好な自然環境には、希少な水性・湿原植物や動物が生息しています。
実りの沼 多々良沼	館林市北西部の沼 中世期に沼から用水が開拓され、潤された台地では米麦の二毛作が盛んとなりました。また、多々良沼で捕れるナマズやウナギなどの川魚は、貴重なタンパク源でした。
守りの沼 城沼	館林市中央部にある東西に細長い沼 沼を天然の要害として近世館林城が築かれるとともに、南岸には樹齢800年を超える躑躅が歴代城主に守られてきました。
里沼のもてなし文化	「祈りの沼」「実りの沼」「守りの沼」がそれぞれの特性が明治の近代化以降、「もてなしの心」へと磨き上げられ、館林市の「里沼文化」として現在まで受け継がれています。

（２）再整備方針

「つつじが岡公園ランドデザイン」の理念と事業展開方針を基本として、つつじが岡公園及び周辺エリアの課題解決と館林市の沼辺文化を軸とした魅力発信に向け、つつじが岡公園の整備方針を以下のとおり定めます。

なお、本計画では、サイクリングターミナル及び未供用公園用地を含め、一体的に再整備するものとします。

【現況と課題、再整備方針】

現況と課題

①来訪者の減少

- ・ つつじが岡公園は本市有数の観光名所となっていますが、近年来訪者数は減少傾向にあります。
- ・ つつじが岡公園の集客力の柱を担うつつじまつりの有料入園者数が減少する等、花の魅力だけでは集客力が低下しているため、コンテンツの充実により、新たな公園来訪者の獲得を図ることが必要です。

②来訪シーズン・時間帯・属性の偏り

- ・ つつじ開花時期に来訪が集中しているなど、利用の偏りがみられます。つつじ開花時期以外の来訪目的を充実し、年間を通じて集客を図ることが必要です。
- ・ 利用者は高年齢層が多く、若年層や子育て世代の獲得を図ることが必要です。
- ・ 大半が日帰り利用であり、滞在時間を延ばし、宿泊を促すような仕組みづくりが必要です。

③サイクリングターミナルの休止

- ・ サイクリングターミナルは現在休止しており、再開に向けた再整備が必要です。
- ・ 日本遺産「里沼」の認定を契機とした館林市の魅力発信や集客性向上のため、城沼周辺における観光機能を高めることが必要です。

再整備方針

方針①新たなターゲットの獲得

- ・ 様々な利用者が訪れ、長く滞在できる公園を目指し、里沼のロケーションを生かした居心地の良い空間の更なる向上を図ります。
- ・ 物販・飲食の充実により、地域住民による日常利用の増加や、観光地として集客力の強化を図ります。

方針②通年・終日利用できる目的

- ・ 公園に訪れる目的となる体験型コンテンツの導入により、年間を通して利用される四季型公園として、シーズンや時間帯による利用の落ち込みが少なく、最大限利用される公園を目指します。
- ・ 夕方以降の公園利用を促すコンテンツを拡充し、利用時間の拡大を目指すとともに、サイクリングターミナルへの宿泊を促します。

方針③サイクリングターミナルの活用

- ・ 民間活力により、集客力の高い観光関連施設としてサイクリングターミナルと未供用公園用地の一体的活用を図り、泊まりたくなる公園づくりを目指します。

(3) エリア別の整備方針

① エリア区分

本計画においては、「つつじが岡公園グランドデザイン」にて検討された範囲を「四季型エリア(日帰り観光)」として位置付け、また、四季型エリアの中でも特に、国指定名勝「躑躅ヶ岡」を生かした花の魅力による季節観光を促す地区を「つつじ名勝エリア(季節観光)」として位置付けます。また、サイクリングターミナルや未供用公園用地などを有する古城沼周辺地区を「古城沼周辺エリア(宿泊観光)」として位置付けます。

【エリア区分】



② エリア別の整備方針

各エリアにおける現況と課題を踏まえ、課題解決に向けては、以下のとおり整備方針を定めます。

【エリア別の整備方針】

四季型エリア (日帰り観光)	四季折々の花が楽しめる空間としての魅力増進と、新たなコンテンツの充実により、新規来訪者の獲得を図るとともに、年間を通じた集客力の向上を目指します。
つつじ名勝エリア (季節観光)	国名勝に指定されている「躑躅ヶ岡」を保護し、城沼北岸からの景観を将来的に維持していきます。つつじの保護育成の徹底と、つつじまつりを中心とした集客力の向上を図るとともに、周辺エリアを含めた賑わい創出を図ります。
古城沼周辺エリア (宿泊観光)	サイクリングターミナルと未供用公園用地の一体的な活用を図るとともに、長期滞在を促す機能の充実により、泊まりたくなる公園づくりを目指します。